



水と緑と人が生み出す エネルギー

球磨村地球温暖化対策 実行計画（区域施策編）を 策定しました

平成27年3月

地球温暖化は、その原因と影響が地球規模にわたるため世界全体で取り組まなければならない喫緊の課題です。そして、本村の自然環境や生活環境に多大な影響を生じさせる可能性を有する問題でもあります。

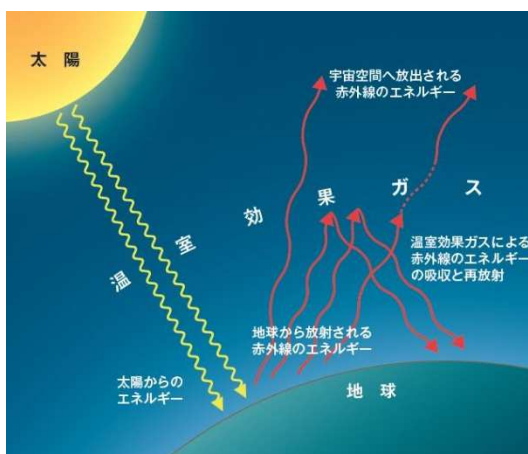
つまり、地球温暖化は世界や国だけでなく、本村も直面する問題であり、これを防止し、豊かな環境を将来に引き継ぐためには、村民・事業者・行政が一体となって取り組む必要があります。

本村は、約4,000人、約1,600世帯が暮らす中山間地域に位置する小規模な自治体であるため、日本全体に占める二酸化炭素排出量は多くはありません。しかし、農村部という特性から、自家用車や暖房用途など、都市部の世帯よりもエネルギー消費量が多い分野もあります。また、森林や水資源に恵まれた地域であり、これらの自然資源を活用することで、エネルギーを生み出すこともできます。

こうした位置づけを踏まえ、温暖化対策においても本村の役割を積極的に果たすため、実行計画（区域施策編）を策定しました。

実行計画（区域施策編）とは…その区域の自然的社会的条件に応じて温室効果ガスの排出の抑制等を行うための施策についての計画を策定するもの。都道府県、政令指定都市、中核市、特例市において策定義務があり、都市計画や農業振興地域整備計画等は、本計画との連携に配慮することとされている（地球温暖化対策の推進に関する法律 第20条の3第3項、第4項）。その他の地方公共団体については、策定の努力義務となっている（同 第20条第2項）。

<二酸化炭素等の温室効果ガスが地球温暖化を引き起こす理由>



地球の表面は太陽から届いた熱によって暖められ、夜になると蓄えられた熱が宇宙に放出されて気温が下がります。この時、地球の温度が下がり過ぎないように熱を吸収して地表に止めているのが温室効果ガスで、これにより20世紀半ばまでは地表付近の平均気温が15度前後に保たれていました。

しかし、産業の発展に伴い、石炭や石油などの化石燃料を大量に消費するようになり、大気中の二酸化炭素濃度は200年前と比べ約35%増加しました。

温室効果ガスの一つである二酸化炭素が急激に増加したため、多くの熱を吸収することで地球が冷却されにくくなり、大気や海水面の温度が上昇する現象が生じています。

これが地球温暖化です。

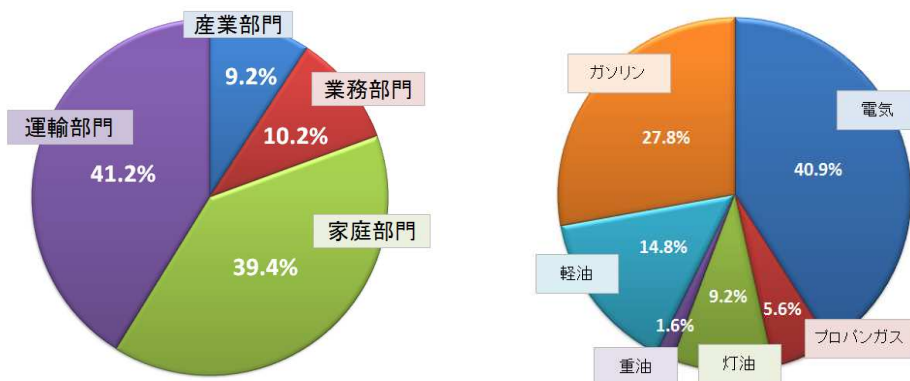
出典) 環境省「STOP THE 温暖化 2012」

球磨村の二酸化炭素排出量とその傾向

■ 球磨村の二酸化炭素排出量とその傾向

本村における平成25年度の二酸化炭素排出量は、19,653t-CO₂です。この数値は、平成26年9月に実施した家庭及び事業者の方々へのアンケート調査を基に推計しました。

部門別にみると、運輸部門が最も排出が多く、次いで家庭部門となっています。村内には大規模な二酸化炭素排出を伴う特定の産業活動はなく、村民の日常生活に伴う排出が多くを占めています。運輸部門においても自家用車による排出が85%以上を占めるため、村民生活に係る二酸化炭素排出量を如何に削減するかが重要となります。



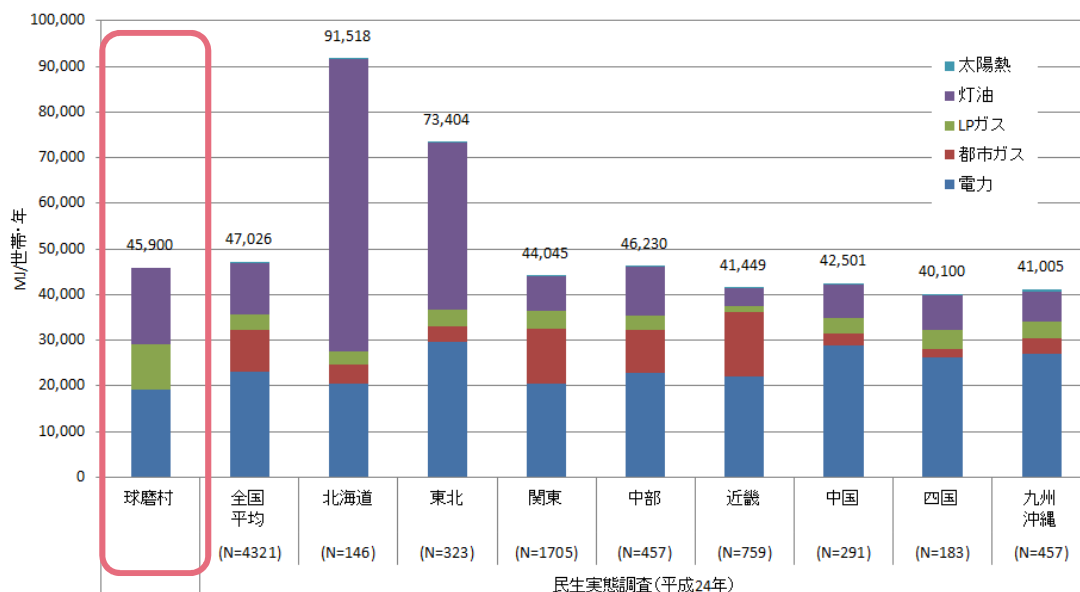
■ 家庭におけるエネルギー消費の傾向

二酸化炭素は、化石由来のエネルギーを消費することによって発生します。本村の家
庭では、エネルギーをどのくらい消費しているのでしょうか。

本村における一世帯あたりのエネルギー消費量は約46GJで、全国平均を僅かに下
回っています。全国平均や九州沖縄地域と比較すると、灯油の消費割合が高くなってい
ます。

灯油は主に、暖房・給湯に利用されますが、全国の傾向と比べると灯油による給湯機
の保有割合が高くなっています。また、暖房機器についても、灯油ストーブや灯油ファン
ヒーターの保有率が高くなっています。

電気、プロパンガス、灯油に加え、太陽光や木質バイオマスなどの再生可能エネル
ギーも含め、給湯・暖房・冷房・照明等のそれぞれの用途に合わせて、効率の高いエネ
ルギーを選んでいくことが重要です。



二酸化炭素排出量を削減するために家庭でできる取組

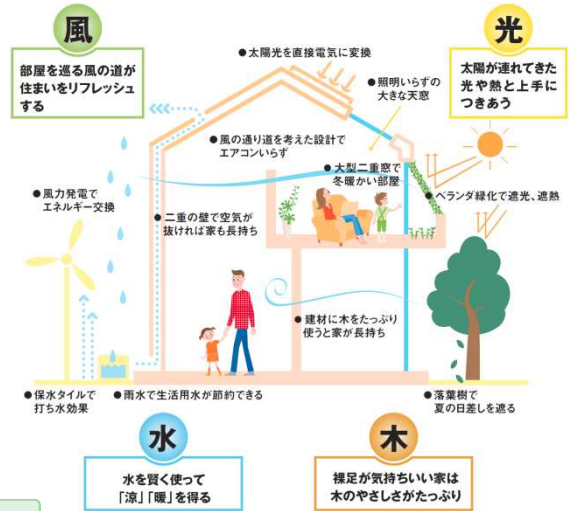
省エネルギーを実行しましょう

省エネルギー行動の実施

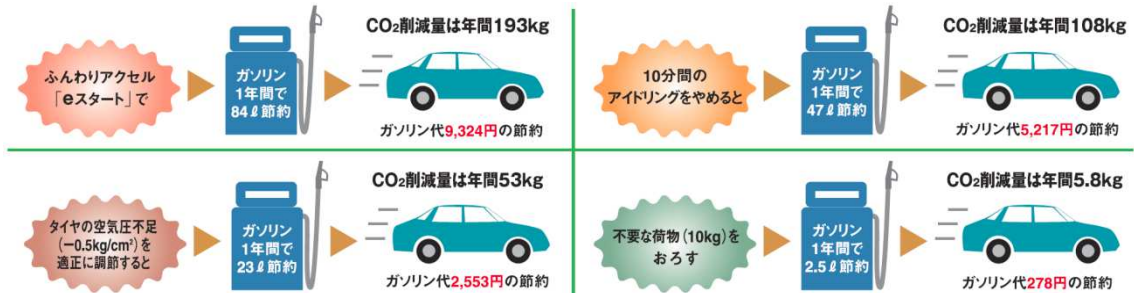
テレビを見ないときは消す	13g
主電源をこまめに切って待機電力を節約	65g
夏の冷房時の設定温度を26℃から28℃にする	83g
冬の暖房時の設定温度を22℃から20℃にする	96g
炊飯器の保温をやめる	37g
入浴は間隔をあけずに行う	86g

※数字は1人1日あたりの二酸化炭素削減量 (g-CO₂)

省エネルギー型の住宅の導入・改修



エコドライブの実施



出典) 温室効果ガスインベントリオフィス

全国地球温暖化防止活動推進センターウェブサイト (<http://www.jccca.org/>) より

●2,000ccオートマチック乗用車、年間の走行距離10,000km、燃費11.5km/ℓの場合 ※ガソリン価格111円/ℓとして計算
 ●ガソリンの二酸化炭素排出係数2.3kg-CO₂/ℓとして計算

再生可能エネルギーを活用しましょう



木質バイオマスを利用した暖房を導入しませんか？

木質バイオマス燃料により発生した二酸化炭素は、樹木の成長により吸収されることからカーボンニュートラルといえます。また、身近な森林資源を利用することで、地域の活性化にも貢献できます。

出典) 環境省「木質バイオマスストーブ環境ガイドブック」

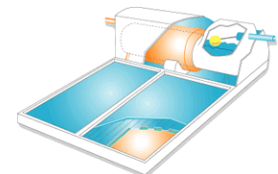


ご自宅の屋根に太陽光発電を設置して、太陽の光で発電した電気を利用しませんか？

太陽電池容量 1kWシステム当たりの年間発電量は約1,000kWh。球磨村の一世帯当たりの年間消費電力量は5,300kWh/年なので、4kWシステムを設置すれば、75%程度を太陽光発電でまかなえる計算になります。

参考) 一般社団法人 太陽光発電協会

ご自宅の屋根に太陽熱温水器を設置して、太陽の熱で温めたお湯を利用しませんか？



例えば灯油から代替した場合、一世帯あたり約445L/年の灯油を節約でき、1,105kg-CO₂/年の二酸化炭素削減に寄与します。

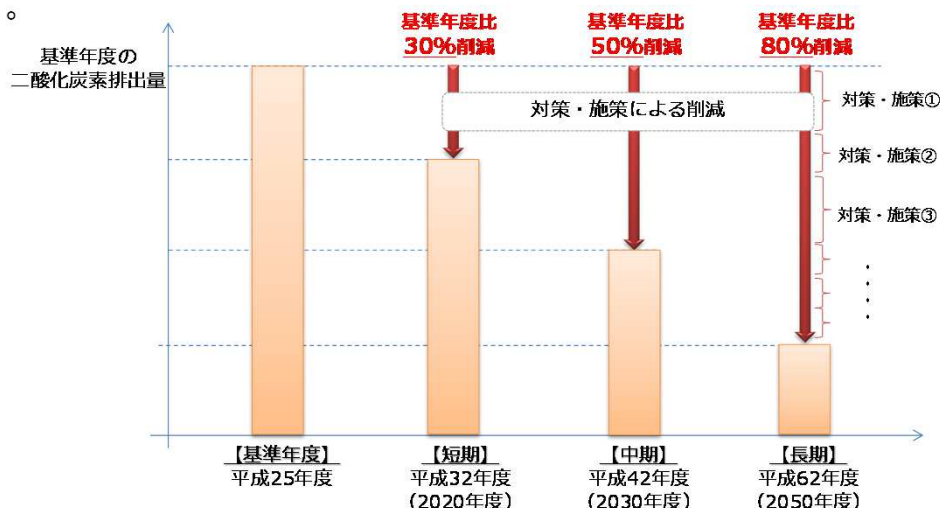
参考) 一般社団法人ソーラーシステム振興協会

球磨村の全体の削減目標と、目標達成のための対策・施策

■削減目標

二酸化炭素の着実な削減を目指すため、削減目標を設定しました。目標は、短期・中期・長期の3時点において、段階的に設定しました。平成62年度（2050年度）までには、低炭素社会に向けて、技術レベルや政策等の社会情勢が大きく変化していることが期待されます。そのため、短期目標・中期目標とは異なり、野心的な目標値を設定しています。

なお、短期目標は、より実質的な進捗管理を行うため、事業量目標も設定しています。



■削減目標達成のための対策・施策

温室効果ガスの削減目標を達成するため、「省エネルギー対策の強化」「再生可能エネルギーの導入加速化」「球磨村自然資源の価値向上」の3つの基本方針から成る施策体系を設定しました。対策・施策の詳細については、実行計画本編をご覧ください。

将来像

